

山の百花

岩崎 一郎

【67】シモバシラ

シソ科シモバシラ属の多年草である。本州（関西以西）、四国、九州に分布。林床、林縁に自生する。花期は9月～10月、白く小さな花が塊を作って咲く。写真で見たりでは可憐な花だ。

中高年登山者の興味は、実際の花ではなく、冬期、立ち枯れた茎の根元に咲くシモバシラ。咲くといっても花ではなく、メカニズムは分からないが、茎の根元にできる霜柱状の氷結である。不思議の国のアリスだって見たことのない、不思議な形状の氷の花なのである。

ぼく自身、これまでも見たことはあると思うのだが、それと認識して見たことにはなかった。だいたい若い頃は、花なんかに興味もなかったわけだ……。それが昨今、トシのせいかな、花も悪くないな、と思えるようになった。

数年前から新ハイキングクラブの会員になって、『新ハイキング』誌を毎月愛読している。同誌のカラページで石老山のシモ

バシラが紹介されていたので、近いし行ってみようかなと思つて、昨年12月29日に訪れた。花期？は、12月下旬から1月初めであるらしい。雪が降ってしまったてはアウト。寒さが厳しい早朝の方が、花としてきれいのようだ。林縁に素敵なシモバシラを見つけてケイタイで撮し、友人に見せたら、「ドイツシュペーパー？」といわれた。ギヤフン……。



【68】ロウバイ

手許にある山野草の本の中に捜してみたが、ロウバイがない。聞けば、草ではなく木であるかららしい。大津講師にインターネットで調べてもらったら、すぐ出てきた。いやあ、インターネットって便利だなあ。

パソコンをマスターしなくちゃ、時代から取り残されちゃうなああと、こんなときはいつも反省するのだが、毎回、ノド元過ぎると熱さを忘れてしまう悪いクセは抜けない。閑話休題、ロウバイである。「名前に梅がついているので、バラ科サクラ属と誤解され易いが、ロウバイ科ロウバイ属の落葉広葉低木である」と、パソコンの画面に説明が出ていた。梅の仲間だと思っていたが、梅とは別の独立した属であることを知った。

一昨年の暮、長瀨にある宝登山に登った。ロウバイがちょうど咲き始める頃で、冬空に黄色い花がよく似合っていたし、香りも春を呼ぶようがいい。すっかり気に入って、今年1月3日、山塾ユースの企画に取り上げて、長瀨アルプスから宝登山を歩いてきた。めざすは宝登山のロウバイである。

宝登山頂上に到着する。咲き具合が心配だったが、暖冬のせいであやかな黄色いドレスを着た木が多かった。天気もよく、寒ザクラも咲いていたりして、春から縁起のいい、ロウバイ花見登山になった。宝登山神社への初詣と合わせて、新春恒例の「山の遠足」にしたいなと思っている。